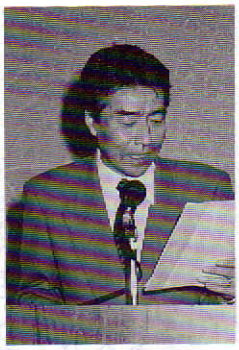
●会計報告●

能代高校東京同窓会・会計監事
村井克自氏　新制四期



簡単に会計報告をさせて頂きます。みなさんのお手元に配られております総会資料の2ページ目をご覧頂ければ十分おわかりと思いますので、読み上げることはいたしません。早く飲みたい気持が先行して、のどがカラカラです。悪しからずご了承ください。

まず最初に、収入の中に板倉氏記念品とございますのは、幹事の有志よりご寄付を頂いたものでございます。ご協力くださったみなさま、どうもありがとうございました。なお支出のほうは十一万五千円もらったうち、厚かましくも同窓会のほうに一万五千円残しまして、板倉前会長には十万円の記念品をお贈りさせて頂きました。また、鈴木裕美子支援金五十二万円に関しましては、次ページを見てください。これまた厚かましく、たまたま2回戦で負げだども硬式野球部が甲子園へ行ったり、軟式が全国大会出場で明石球場へ行ったりということもありまして、鈴木さんへの支援金からへじって、へじったというにはちょっと十九万円という額は大きいですが、鈴木さんのご好意により母校野球部に寄付させて頂きました。大体こんなところですが、よろしければご承認頂きたいと思います。（拍手）……。ありがとうございます。

能代高校東京同窓会収支決算報告書

自平成３年10月１日～至平成４年９月３０日

収入		支出	
前期繰越分	802,703	総会会場費支払	664,169
総会会費	726,000	総会諸経費	462,229
年会費３年度	905,000	印刷代	1,390,000
年会費４年度	754,000	郵送料	280,197
寄付金	378,000	広告交際費	60,880
恩師招待基金	198,000	鈴木裕美子支援金	490,000
鈴木裕美子支援金	520,000	板倉氏記念品代	100,000
板倉氏記念品	115,000	事務経費	11,650
預金利息	6,777	振替手数料	19,430
		次期繰越分	929,925
合計	4,405,480	合計	4,405,480

上記の通り相違無き事を承認しご報告申し上げます。

平成４年10月１日　会計監事　村井　克自　印

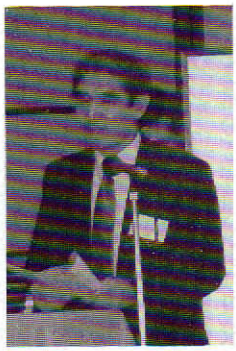
鈴木裕美子オリンピック出場支援募金状況

平成４年９月20日現在

収入				支出	
	20,000円	１名＝	20,000円	鈴木裕美子さんへ	300,000円
	10,000円	９名＝	90,000円	母校野球部　寄付	190,000円
	50,000円	78名＝	390,000円	通信費・雑費	30,000円
	新制７期有志	７名＝	20,000円		
	合計	95名	520,000円	合計	520,000円

●事務局からの報告●

能代高校東京同窓会・事務局長
八柳昭義氏　新制八期



幹事会の活動報告というページをご覧ください。幹事会は原則として年間6回偶数月に開催しております。先ほど会長からもお話がありましたが、幹事のみなさんにお集まり頂きまして、会の活動・運営に関していろいろ協議するとともに、よりいっそうの親睦を図っております。ただ、残念なことに幹事になって頂ける方のいない期があります。その期がこのような集まりその他の活動に対して、あまり活発に参加頂けないというようなことがございます。

新制六、十二、十三、十六、十七、十八、十九、二十、二三、二四、二六、以上各期には幹事の方がいらっしゃいません。どなたか幹事になって頂ける方がおられましたら、幹事会にもご出席頂きたいと思いますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

それからこれも先ほどお話がありましたが、市内5校それに二ツ井高校を含めまして、交流を図り親睦を深めるため、それらの代表の方々を本総会に招待することにいたしました。こちらもそれぞれの同窓会のご招待に預かっております。そのほか毎年一回、市内の高校同窓会の主な方々に集まって頂いて、懇親会・懇談会を催しお互いの情報交換とか、新しい企画の開発などに結び付けていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今年は八月に懇談会を開催いたしました。

今年は鈴木裕美子さんのオリンピック出場と母校野球部が甲子園に出たということ、これが特別な催しにつながるということになります。鈴木さんの件につきましては、有志の方々に募金をお願いし、九十五名の方から五十二万円の募金をお寄せ頂きました。村井さんの会計報告にありました通り、三十万円を贈呈し、十九万円は鈴木さんの申し出により、母校野球部の甲子園出場寄付金とさせて頂きました。三万円は募金要請の郵送料などの経費といたしました。野球部甲子園出場に関しましては、東京同窓会は複雑になることを恐れ、能代本部のほうに一本化ということで、特別な活動はいたしませんでした。ただ、個人個人で応援に行って頂くということで、実は私も一回戦の応援に行きました。優勝、いや勝ったときのあの喜びは、テレビなどではわからない、現場でなければ味わえない感慨だと思います。今度また出るときには、みなさんも甲子園に足を運ばれて、ともに応援して、その場の喜びまたは悲しみを味わってみられたらよろしいと思います。近畿同窓会には切符の手配などのご苦労をして頂きました。特に近畿の秋田県人会が力を入れてくれまして、毎年秋田県の代表校に格別の応援をしてくれている模様です。今回はわが校の軟式野球部が明石球場に出場しましたが、近畿県人会はそちらの応援にもかなり力を注いでくれたようです。

以上が本年度の活動状況でございますが、今後ともよろしくご協力のほどお願いいたします。なお、特に若い方々のよりいっそうのご支援を頂くことが今後の課題となると思います。

最後に、来年は新しい名簿の発行を予定しております。住所氏名その他の確認のため、ご連絡をいたしますので、ぜひ返信の葉書を頂きたいと思います。特に今回はそれぞれの出身地をできるだけ細かく明示してみたいと思っております。一口に能代高校出身と言いましても、かなり多くの市町村出身の方々を含んでおります。また、市町村はさらにいくつかの集落でできております。たとえば、山本町ですと下岩川とか金岡あるいは森岳と言った所が含まれますが、そこまで書いて頂ければと思っております。出身地として、このような点までが明示されますと、かなり世代の離れた者同士、これまでこの同窓会でせっかく顔を合わせながら、ほとんど言葉を交わすチャンスさえなかった人たちも、「ああ、あの先輩は私と同じ土地の空気を吸い、同じ水で育ったのだ」と感慨もひとしおで、世代間の垣根を取り払うことができて、親しい交流の糸口にすることができるのではないかと思っております。

現在、名簿業者と言った業界もあるようでございます。名簿作成に当たりましては、みなさんのプライバシーを損なうことがあってはならないと、みなさまにご迷惑のかからないよう、できる限りの配慮はいたします。また、このような点にぜひ注意してもらいたいと言ったアドバイスが頂ければ、なお結構でございます。来年の新名簿作成に当たりまして、以上のお願いをもちまして、事務局からの報告とさせて頂きます。

ありがとうございました。

●来賓祝辞●

秋田県立能代高校同窓会会長　神馬恒成氏　旧制九期

本日は東京同窓会の総会にお招き頂き、みなさまにご挨拶の機会を与えてくださいましたことをまず、厚く御礼申し上げます。

私は、能代高校にとって今年は、近年にない輝かしい年であったと思います。先ほど来、会長さん、事務局長さんからるるご報告がございましたが、まず、四月の参議院選挙におきまして、われらがホープ佐々木満先生が圧勝いたしました。それに続きまして硬式野球部が、久しぶりに甲子園出場の偉業を成し遂げましたし、また引き続き、軟式野球部が全国大会に駒を進めるという成果を収めました。それに先ほどご講演を頂きました鈴木選手の自転車競技におけるオリンピック出場と、能代高校に稀にみる実績を記した年でございました。この実績は、ひとえにみなさま方の常日頃の能代高校に対するご叱正、ご協力の賜と深く敬意を表し、心から御礼申し上げる次第であります。

甲子園出場につきましては、九千万円の目標を立ててみなさまに募金をお願いしましたところ、現在までに推計いたしました結果、一億一千四百なにがしの額が集まってございます。まだ、きちんとした結果はでておりませんが、今までのところから推し量りまして、三千万から四千万ぐらいの残額がでるのではないかと推定されます。その残額につきましては、これから関係者にいろいろご検討頂くわけですが、幸い今年は能代二中野球部が全国大会に出場いたしました。これに期待をいたしますと、3年後の能代高校七十周年には、またもや甲子園出場を果たしてくれるのではないかと、おおいなる期待を寄せておる次第でございます。

学校の細かい状況は、校長先生からご報告頂くことにいたしまして、みなさま方の常日頃のご協力・ご叱正に対する御礼と同時に、東京同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、私のご挨拶にかえる次第でございます。どうもありがとうございました。

秋田県立能代高等学校校長　椎名光雄先生

まず最初に、能代高校東京同窓会がかくも盛大に開催できましたことを、心からお祝い申し上げます。また、この東京同窓会の発展充実のために、前会長さん、現会長の小林さんはじめ事務局ほか幹事のみなさんが、さぞや大変なご難儀をいたしておられることと思われます。心から敬意を表しお礼を申し上げたいと思います。

私からは学校の状況など二、三ご報告させて頂きたいと思いますが、詳しいことはお手元に学校の状況を資料としてまとめたものを、配布させて頂きましたので、機会がございましたら、みなさまの高校時代あるいは、旧制中学時代を重ね合わせながら、お読みください。

能代高校校長就任3年目になりますが、今年ほどうれしく、また能代高校がすばらしい学校であることを痛感したことはございません。同窓生の立派な活躍もございますが、在校生も本当にすばらしい活躍をしてくれたと思います。それに火をつけてくれたと言いますか、能代高校生もやればできるぞと、身をもって示してくれましたのが、本校出身者として5人目のオリンピック出場を果たされた鈴木裕美子さんでした。加えて神馬会長の春の叙勲、そして佐々木満先生の圧倒的な参議院当選が、生徒のさらなる奮起を促したものと思います。暑い夏とは言いますが、本校にとっては燃えに燃えた夏でございました。十四年ぶり硬式野球部四回目の甲子園出場、同時に宮崎で全国高校大会がありしたが、それに柔道の女子団体を含め、8名の出場、軟式野球部の6年ぶり十回目の明石球場出場と、本校の歴史上にもない夏の活躍だったと思われます。特に硬式野球部は第1回戦、途中これまでと目をつぶる場面もございましたが、最後に本校生徒の持っている力を十分に出し切って、あの真夏の甲子園に本校の校旗をなびかせ、それを見上げながら生徒八百名と、アルプススタンドそのほかにおられた本校同窓生、計三千数百名による校歌の大合唱を聞くことができました。行った方々はみな声を張り上げて校歌を歌ったと言いますが、私の見たところほとんど歌わずに肩を抱き合って、ただ涙を流して喜んでいる人が多かったようでした。いずれにせよ、すばらしい夏だったと思います。

二回戦、明石大会と応援・報道担当の生徒、延べにして一千二百名を越える生徒が、この夏大阪、明石を訪れたことになるかと思います。生徒もおそらくこれからの人生で「やればできるのだ」「能代高校はそれだけの力を持ってい

るのだ」ということを、心に深く刻み込んだ夏ではなかったかと思います。先ほど神馬会長さんのお話にもございましたが、甲子園出場に関しましては、みなさまに大変なご支援を頂きました。この席を借りて厚くお礼を申し上げます。ご寄付に関する額は先ほどのお話の通りでございますが、件数に関しては、最初一万五千件ぐらいで終わるかと思いましたところ、3名のアルバイトが盛んにパソコンに入力しておりますが、どうもいつまでたっても入力が終わりません。聞きましたところ、どうやら二万件近い数字であろうという話でございました。近々集計が終わりますが、いずれにしましても大変なご支援を頂きましたこと、この席を借りて重ねて御礼申し上げます。その使途については、硬式・軟式の選手、それを支えてきた生徒、それがあって始めてできた全国大会出場ですので、それらの生徒に能代高校3年間が生涯の思い出として残るようなものにしたいと考え、職員ともども相談し、生徒主体に使わせて頂く、このような方針で検討しております。詳しいことは後日報告書にまとめ、お届けいたします。

みなさまご承知の通り文武両道を目指す本校でございます。もう一方の文に関しましても、この3月の卒業生が、大変すばらしい成績を残してくれました。ここで数字は申し上げませんが、過去にない成績だったと思います。ただ残念なことは、数は相当稼げたのですが、質の面で若干見劣りがするのではないかといったきらいがございました。そこで、来年3月の卒業生には、幸い非常に優秀な生徒がそろっておりますので、同窓会や父母のみなさまのご期待に沿えるよう、そしてまた質量ともに今年の卒業生を上回るべく、職員ともども日夜努力を重ねておる次第でございます。

次は第3点目です。昨年も若干申し上げたことではございますが、本校も高塙の地に移りまして十六年になります。学校へ入って行く道路があるのですが、このままではその回りに家ができてしまうということで、神馬会長さんを中心に土地の取得を願ってまいりました。幸い県が購入することになり、四千万の予算で四千百平米の土地を取得しました。そこへ自転車置場とバスのロータリーを新設することになり、その予算として約八千万円、それに父母の会が、七十周年記念の前倒し金として約二千五百万の費用を足し、一億余りの経費をかけて、現在五割方工事が進んでおります。完成しますと、公立高校としてはおそらく全国に前例のない景観を擁する学校になるのではないかと、このように自負しております。いずれにしましても、永遠に能代高校がこの高塙の地を離れることはないと思います。卒業生や先輩が年輩になったとき、「わが母校はここだよ」と自慢できるような学校にしたいと、各方面のご協力を仰ぎ、その方向へ向けて進行しているところでございます。また、建物施設ばかりではなく、あれがわが後輩だよ、と自慢できるような生徒を生む学校造りも考えております。

なお、本日は私以下4名の職員がご招待に預かり、昨年に引き続きまして3月新卒者を激励して頂くことになりました。これによりまして彼らも、今後能代高校同窓生の一員であるという自覚をもって、東京での生活を充実したものにしていけるであろうと、考えられます。本当にありがとうございました。

以上、簡単ではございますが、学校の近況報告を兼ね、私からのご挨拶とさせて頂きます。

恩師メッセージ

五十嵐研一先生

ご紹介頂きました五十嵐です。私のような者がご招待を受けていいのかどうか迷いましたが、勇を鼓して出て参りました。

上京するのは、およそ二十年ぶりぐらいです。実は私は宮城県人でございますが、昭和三十年に能代に参りまして以来、能代市内の高校に勤め、昨年3月退職しました。いちばん長くお世話になりましたのは能代高校で、昭和三十年四月から四四年三月までと、五四年四月から退職する平成二年三月までの、前後二十六年もおりました。その中間が北校・工業にお世話になり、文字通り能代市民になりきってしまったような形です。事実、今年の夏、甲子園に校歌が流れた時は、なんとも言いようのない感動に、胸が押し詰まりました。

退職後一時は故郷に帰ろうかとも思いましたが、女房は仲間がふえたせいか、どうも帰りたがらないようです。

私が奉職した当時は、まだ市内の道路の舗装もない状態でしたが、先生というのは非常に大事にされまして、なんと言いますか、まぁ、大変いい思いをさせてもらった。それが今日まで、私が長く能代に腰を落ち付けた理由ではないかと思っております。

若い時は勉強不足や脱線で、誠に恥ずかしい授業ばかりだったと反省しております。今日は

それを謝りに参ったのが、ここに立つ理由の一つです。また、五四年に再び能代高校に帰ってきてからは、年相応に慎重に行動し、授業の充実を心がけたつもりではおりますが、退職間際は年のせいか、やたらに怒鳴りつけるばかりの授業でした。それもこの席をお借りしまして、深くお詫び申し上げたいと思っております。

お話したいことは沢山ありますが、時間に限りもございます。本日は、過分なご招待、誠にありがとうございました。

浅野洋一先生

私は、能代高校の職員でもありましたが、旧制十九期、小林会長とは同期の卒業でもございます。会長のほかにも、数名同期の懐かしい顔があちこちに見られまして、本当にうれしく思っております。

鷹巣農林・鷹巣高校の教師を経て、私は能代高校では昭和四四年から五七年の十三年間、教壇に立たせて頂きました。昭和四四年はまだ樽子山に当時オンボロの校舎がございまして、そこに赴任いたしました。校舎はオンボロでございましたが、生徒は純朴、当時のあの牧歌的な教室風景が今でも懐かしく思い出されます。

その後五七年四月に二ツ井高校に転任、金足農業・能代北校の教頭を歴任、平成三年三月小坂高校の校長として退職いたしました。

私は音楽の担当でございましたが、一中や二中、東雲中などから借り集めた楽器による定期演奏会、秋深く高塙校舎への移転、雪に埋もれる悪路と雪だるまによる生徒のいたずらなどなど、思えば語り合い、思い出にふけりたいことは数々ございますが、私がここで独りよがりの感慨にふけってみましても、なにやらみなさんを白けさせても申し訳ありません。

このような一段高い所からではなく、みなさんと同じ同窓生として、みなさんの渦の仲間入りをさせて頂いて、みなさんと顔を突き合わせて、当時の思い出を語り合いたいと存じますので、ここからのご挨拶はこのへんで終わらせて頂きたいと思います。

本日は、かくも盛大な東京同窓会にお招きを頂きまして誠にありがとうございました。

司会：先ほど会長からご紹介もありましたが、本日は市内の各高校の同窓会の代表の方々にご来臨を頂いております。能代北高校松蔭会東京支部のみなさん、能代工業高校同窓会東京支部である東籟会のみなさん、能代商業高校同窓会東京支部のみなさん、能代農業高校関東支部のみなさんが、それぞれお見えでございます。本日はわざわざお越し頂きまして誠にありがとうございます。

格別なおもてなしも趣向もございませんが、後ほど、本日わざわざ能代から駆けつけて頂きました藤田康隆さんと、北高校ご出身の声楽家佐藤優子さんのアトラクション、そのほか山本町のご好意による、郷里の味と香りが当たる抽選会も準備してございます。どうか、普段はなかなか使うことのできない古里のなまりを存分に吐き出して、心ゆくまでご歓談をお楽しみの上、ごゆっくりとおくつろぎください。

飯坂勝美氏（新制二期）　逝去

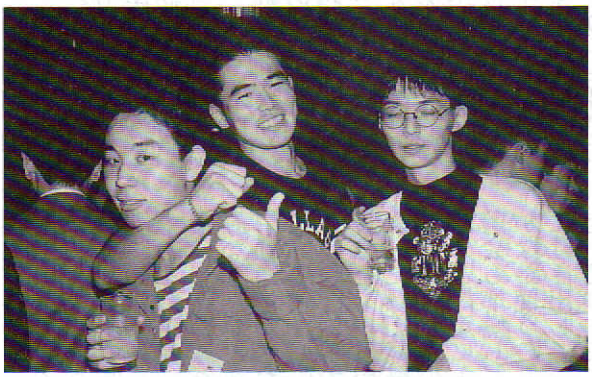
十二月一日虎の門病院で死去。早大大学院卒。昭和三五年民社党本部職員となり、組織局組織部長、市民団体対策委員会事務局長、組織局次長などを歴任。同党の政治資金団体である政和協会事務局長も務めていた。平成元年七月の参院選では、比例区に同党の名簿登載者（十二位）として出馬した。

河田俊彦氏談：彼とは、能代中・高校在校以来の親友で、上京してからもよく飲みよく語り合いました。彼は一口に言って「清廉一徹」汚れたことは髪の毛一筋許さないといった気性でした。東京における同窓会は彼が中心の一人となって発足させたものです。そのためわが同窓会に対する愛着も人一倍で、私のように飲みたくて出席するような者は「幹事会は単に飲み食いするための場所ではない」とよく叱られたものです。「大は国家の政治から小は同窓会のこまかい点にまでメクジラ立てていたら、体がいくつあってももたんぞ。政治には清濁合わせ飲む度量も必要だと言うではないか」と、妙な忠告をして、彼の怒りをさらに煽ったこともありました。

高校時代は、冬はスキー部で、その他のシーズンは野球部で活躍し、健康には人一倍自信があったようですが。こういう状況ですから、政治には彼のような人こそ必要だという時期です。六一歳というあまりに早い旅立ちは、誠に惜しまれてなりません。また、同期生としては寂しい限りです。

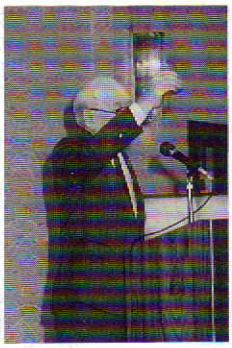
心からご冥福を祈ります。

第三部　懇親会



乾杯の音頭

藤田成孝氏　旧制一期



ということでして、本年も乾杯の音頭を取らせて頂くことになりました。先ほど来みなさまのお話にもありましたが、今年は本当に能代高校にとっていい年でございました。甲子園から全国に鳴り響いたあの校歌は、なんと若々しくまたすばらしく聞こえたことでしょう。おかげさまで、まだまだ年老いてはいられない。次回甲子園からの校歌を聞くまでは頑張らなければと、気を一段と若返らせて頂きました。それでも、うまくやっていれば、準々決勝ぐらいまではいけたのではないだろうかなどと、欲の深い繰り言に血圧をはね上がらせもいたしました。

えー、乾杯の音頭のつもりが、ちょっとわき道にそれてしまいました。それではみなさまのご健康・ご活躍と母校能代高校の益々の発展を祈念し、また本日お見えの新卒のみなさんの今後のご健闘をお祈りいたしまして、乾杯したいと思います。

カンパーイ！

司会：どうもありがとうございました。それでは、しばらくの間ご歓談ください。

参議院議員

佐々木　満氏　旧制十五期

旧制十五期の佐々木満でございます。先般参議院議員選挙がございましたが、その節はみなさまに大変お世話になりました。ありがとうございました。その頃ちょうど能代高校が野球その他で、非常な盛り上がりを見せておりましたが、幸いにも私もその上昇ムードに乗せて頂きまして、おかげさまで当選させてもらいました。本当にありがとうございました。

これからも一生懸命頑張りますので、どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

みなさん本当にありがとうございました。

司会：えー、昨年に引き続きまして、本総会は今年卒業された方々の歓迎会と言いますか、東京同窓会新加入のみなさんの顔見せを兼ねております。それでは、今年3月に卒業された新卒のみなさん、どうぞ壇の上へお上がりください。

えー、この方たちがこの度、私ども東京同窓会の一員になったわけです。

みなさん、盛大な歓迎の拍手をお願いいたします。（拍手）

平成４年度総会出席者氏名《敬称略》

平成４年１０月２日（金曜日）

旧制１期　藤田成孝　３期　板倉創造　４期　栗生沢實　後藤典二　７期　高橋富男　８期　高原英夫　９期　草皆英二郎　13期　勝永金一　14期　村木良二　15期　佐々木満　16期　熊谷洋三　中嶋信雄　19期　小林　肇　佐藤達郎　千葉孝夫　八木喜徳郎　以上16名

新制１期　大塚哲郎　鈴木良夫　２期　河田俊彦　３期　伊藤康孝　江坂昭夫　信太吉右ェ門　谷藤義郎　八杉和男　渡辺利広　４期　草階郷甫　小林究明　村井克自　安井浩一　５期　相澤裕雄　三田　登　６期　小山黎子　７期　栗原俊一　高田嘉子　８期　板倉富彌　金子秀雄　北村祐三　佐々木高博　佐藤五郎　杉崎孝雄　嶋田拓爾　須藤　正　野呂文雄　畠山信孝　馬場ノリ　堀　良三　松橋重美　八柳昭義　９期　栗原優子　佐々木隆　檜森　寛　10期　穴山勝良　石川輔宏　塩谷　惇　柴田　睦　古内　仰　松島　茂　11期　石川正順　太田勝治　清水武久　蓼沼正紀　田中善明　嶋田雄右　港記久郎　本庄喜代彦　宮腰瑞夫　12期　小島セイ　野中啓右　堀内英紀　山田圭一　13期　高松和夫　14期　磯部　博　佐藤　博　高田政勝　高谷誠　濱谷裕一　森　喬夫　15期　越後谷達雄　小林勝彦　武田　功　堀内忠人　船山　稔　矢木信章　17期　佐々木正男　本庄瑞彦　19期　小野津世子　笹村八州　若狭秀巳　20期　川村忠義　坂田二郎　佐々木慶二　21期　大塚　進　菅原　渉　22期　智田　農　23期　小河範也　25期　佐藤義宏　小林　彰　高橋敦子　31期　鈴木裕美子　33期　田中正博　以上86名

新卒出席者

相原かおり　石戸谷園子　伊藤康彦　市川甲太郎　大高忠勉　大塚將樹　小野　毅　風間貞浩　金沢瑞穂　菊地水保　近藤千鶴子　小嶋友哉　坂本美果　佐藤章子　設楽祥子　柴田美冬　相馬　希　高橋和貴子　滝こずえ　田中千晴　谷内純子　成田綾子　能登祐克　袴田英里香　袴田ゆかり　畠山裕彦　原田　有　平川　学　藤田匡利　松山さゆり　安井真希　安田智也　山崎早苗　山谷美保子　以上34名

出席者合計　136名

ご招待出席者氏名

招待恩師	五十嵐研一先生
	浅野洋一先生
能高同窓会	神馬恒成会長
学校長	椎名光雄先生
同窓事務局	佐藤真孝先生
新卒担任	高橋　宏先生
新卒担任	畠山栄一先生
能代市役所	佐藤二郎氏

市内高校同窓会《順不同・敬称略》

能代北高校　斉藤セツ　吉田ケイ　小島愛子　谷内葉子　四釜喜代　石井出英子　石井則子　佐藤優子

能代工業高校　宮腰昇三

能代商業高校　安岡政勝　青木保子　伊川鉄郎　小林ヒデ　岡本　修　佐藤千鶴

能代農業高校　廉内輝男　川村智子

アトラクション出演　藤田保隆氏

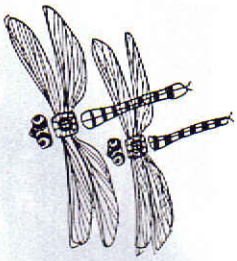
出席総計　162名

讃歌

たからかに
　われら讃うわが選手
見せよ日ごろの
　きたえし力
たたかい抜け
　力の限り
行く手には
　輝く栄光あり

日本海

日本海の　荒波の
燃ゆる血潮のしぶき浴び
雄図目ざして　今立てり
健児征馬の　ゆくところ
敵城　潰えて　影もなし
勝利　勝利
誉は高し　我らが選手



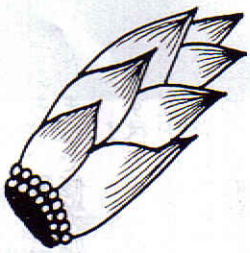
遠征歌

一、潮騒さゆる　北海の
岸のほとりに　地を占めて
たゆまぬ歩み　幾年の
陣容なりて　時至る

二、見よ　この姿　この光
奥羽の華と　うたわるる
高き誇りを　身にひめて
立てり　能高　健男児

三、百練千磨　山を抜く
力は内に　溢れたり
誰か　とゞめん　若人の
嵐に向かう　熱血を

四、いざや　征衣の　袖軽く
奮えて行けや　我が選手
いざや輝く　栄冠を
勝ち得て帰れ　我が選手



秋田県立能代高等学校　新制四期生卒業４０周年記念同期会　　平成４年９月１２日

●出席者●（前列左より最高列右へ）高畑建志，青木勇，岩見雅夫，田畑久雄，渡辺誠治，宮腰陽一，佐藤武光，村井克自，斉藤裕，道川屋隆悦，松野和，下妻正順，浅野峯太郎，佐藤清明，小林斌，千場正司，谷内昭夫，三浦義正，能上正男，安井孝蔵，丹波望，佐藤州男，竹内敏夫，福田昌雄，石井信男，塚本明，吉田一鐵，高木洋一，児玉多郎右ェ門，松枝潔，伊藤迪夫，田村守種，堺和民，佐藤政光，成田廣造，石嶋芳人，須藤敏夫，笠井義一，阿部銑一，田中紀夫，宮腰克弥，小杉山啓一，秋元義雄，田口昇，宮腰吉則，神馬秀夫，柳川重雄，銭谷哲男，加賀進一，佐藤良，工藤茂美，工藤太一郎，鈴木一，佐藤進，笠井三朗，成田秀雄（遅刻土井啓有）《以上，敬称略》

女子生徒初入学で胸ドキドキ！

村井克自　新制四期

新制四期生（通算二二期生）卒業四十周年記念同期会が、平成四年九月十二・十三日の両日、『国民年金保養センターのしろ』で開催。遠路はるばる駆けつけた者を含め、総勢五十七名が集まり、夜を徹して飲み明かした。

思えば、当初秋田県立能代中学校に入学。戦後学制の変更によって、まもなく新制高校併設中学校となり、家庭の事情で併設中学で卒業する者、新たに新制中学から高校に入学してくる者もあって、クラス内の変動も激しい上、仮校舎（後に焼失）から樽子山の新校舎への移転などなど実に目まぐるしい６年間であった。

民主主義時代に入ったおかげで、往復ビンタの難は免れたものの、中学一年から高校一年までの４年間を最下級生（新制中学が各地域に発足したため、以来能代中学への新入生はなく、高校二年になって初めて後輩を迎えた）で通し、先生や諸先輩に「あまったれ」と言われ続けたことを思い出す。

高校三年の四月、われわれの男子校に始めて女子生徒が入学してきた。ニキビだらけのイガグリ頭どもが毎日ウキウキして登校したことが、今回集まった五十数名の共通した話題（その内容は今はやりのセクハラになりかねないので、ここに披露するわけにはいかないが）であった。

私に限らず、みんなにとってとにかくハラハラドキドキの連続だったらしい。

就職難のなか、人員不足だった教師を含め、公務員になった同期生の数が意外に多く、その他の仕事についた同期生全員が激動の時代を乗り切ってきたことは、それぞれの顔に刻まれたシワや、髪の毛の白さや淡さがよく証明していた。

九月十二日は、同センターに宿泊して（希望者のみ）、翌十三日は貸切バスで火力発電所・風の松原などを見物して、まるで修学旅行の再現の感があった。

苦しかったこと、辛かったことも一変して、今やすべて楽しい思い出となり、今後ますます元気に「四十五周年記念・五十周年記念に向けて頑張ろう」を合い言葉を誓いあって、三々五々帰路についた。

なお、それがことさらどうということもないが、われわれ新制四期生は、秋田県立能代南高等学校の最後の卒業生である。